

入院患者で転倒・転落の結果、骨折または頭蓋内出血が発生した件数

分子 発生件数

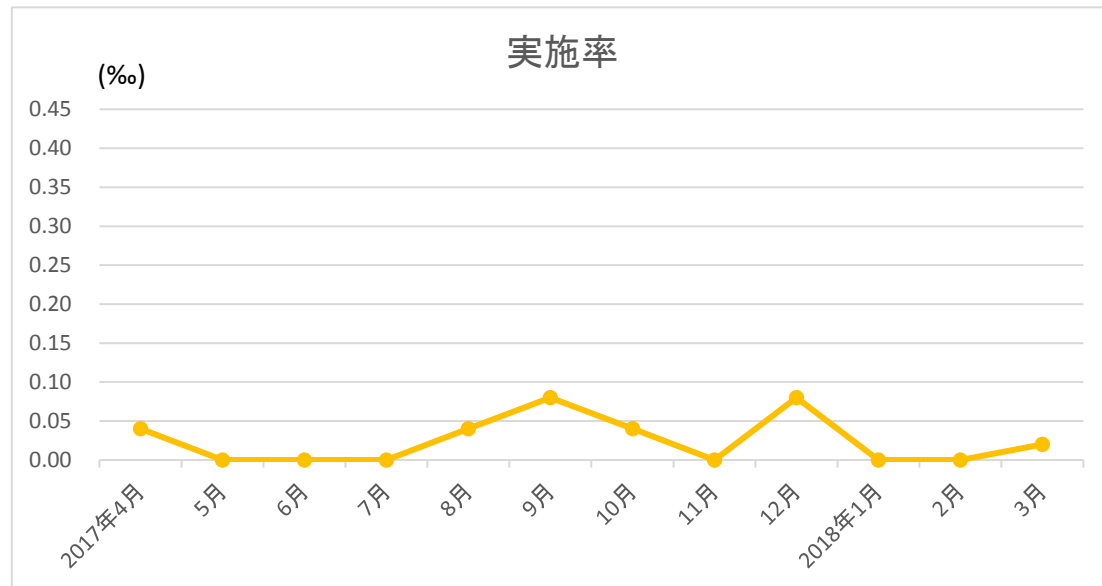
分母 計測期間における延入院患者数

※分母設定は「高齢者(75歳以上)の退院患者数」、
分子設定は「分母のうち入院中に大腿骨骨折が発生した患者数」としている病院もあります。
(国立病院機構臨床評価指標)

年月	2017年4月	2017年5月	2017年6月	2017年7月	2017年8月	2017年9月	2017年10月	2017年11月	2017年12月	2018年1月	2018年2月	2018年3月	年間
分子	1	0	0	0	1	2	1	0	2	0	0	0	7
分母	23868	23737	24073	24281	23962	23467	22553	22064	22368	21644	20764	22540	274857
発生率(‰)	0.04	0.00	0.00	0.00	0.04	0.08	0.04	0.00	0.08	0.00	0.00	0.02	0.02
転倒転落報告件数	32	43	36	49	35	36	33	38	45	26	36	47	456

・計算式 パーミル(‰)

入院患者1000人あたり何人 転倒・転落の結果、骨折または頭蓋内出血しているかを表している 分子/分母*1000



《解説》

転倒・転落により骨折等の外傷が発生した場合、患者さんの生活の質(QOL)の低下や回復の遅延を招き、また入院期間の延長により医療費の増大させる等、様々な弊害をもたらします。しかし、予防に全力を尽くしても予防が困難な場合もあります。このため、予防対策に加え、転倒・転落が発生しても大きな障害をもたらすことがない対策を講じていくことも重要となります。